

令和7年度

「運営に関する計画」

【最終評価】

大阪市立平野小学校

1 学校運営の中期目標

令和7年度の現状と課題

「安全・安心な教育の推進」について、令和6年度のいじめ対応においても、いじめを受けた子どもの救済と尊厳を最優先にしてきた。具体的には、「大阪市いじめ対策基本方針」に基づいて対応し、事前に明示したルールを公平・公正に適用する「学校安心ルール」を徹底し、学校ホームページなどでも提示した。また、学校アンケートにおいて、「友だちの気持ちを考えて行動できている（児童）」の項目で92%、「いじめのない学級・学年・学校づくりに努めている（保護者）」の項目についても、97%以上の高い値を維持できている。不登校児童の対応では、あらゆる場合にも対応していけるよう子どもサポートネットやスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーと家庭・学校がより密に連携を図ることができるよう継続している。令和6年度末に行った学校アンケート「学校は安心する場所だと思いますか（児童）」の項目について、肯定的な回答をする児童が91%おり、学校全体の不登校児童数も、一昨年度と比較した人数において減少傾向にある。今年度も引き続き関係諸機関と連携を図りながら、全児童の教育の機会確保に努める。

「未来を切り拓く学力・体力の向上」について、令和6年度の経年調査の結果、国語科・社会科・英語科に関しては2学年、算数科に関しては3学年が大阪市平均を下回る結果となった。国語科を領域別に見ると、「読むこと」においては、全学年で大阪市平均を下回り、「話すこと・聞くこと」「書くこと」においては、半数の学年が大阪市平均を下回っていた。今年度から新たに校内研究科目を国語科に設定し、全ての学習の基礎基本である「文章を読む力」を育む授業づくりに取り組む。また、算数科において全学年で大阪市平均正答率を下回ってはいったものの、領域別に見ると、「数と計算」「図形」の正答率においては、2学年が大阪市平均を上回った。これは、継続的にモジュールタイムで行っている計算技能向上の取り組み「計算さかのぼりチャレンジ」の成果が少しずつ表れた結果であると考えられる。外国語科・外国語活動に関しては、経年調査の結果、第5・第6学年ともに大阪市平均を上回ることができなかった。しかし、経年調査の質問紙における「外国語（英語）の授業で学習したことを使っているいろいろな人と話をしたいと思いますか。」に対して肯定的に回答する児童の割合は、第5学年で70%、第6学年では60%を超え、外国語（英語）を使って積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童が多いこともわかる。

全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果では、男女ともに体力合計点が大阪市及び全国平均値を上回った。男子は上体起こし、長座体前屈、シャトルラン、立ち幅跳び、ソフトボール投げの5種目で大阪市及び全国平均を上回った。一方、握力、50m走の2種目では、大阪市及び全国平均を下回り課題も見られた。また、児童質問紙「運動やスポーツをすることは好きですか」の項目において、肯定的に回答した児童の割合が男子94.8%、女子87.5%であり、ともに全国平均を上回る結果となった。また、1週間の総運動時間が60分未満の児童の割合は、男子10.3%、女子10.8%で、特に女子に関しては、大阪市及び全国と比較しても大幅に少なかった。これまで継続してきた体育集会やなわとび集会に加え、児童が休み時間に短距離走やボール運動を楽しめる場を設定するなど、一昨年度から新たな取り組みを積み重ねた成果が表れていると考える。しかし、男女ともに握力と反復横跳びは全国平均を下回ったため、今後の課題として、児童が楽しみながら主体的に運動に取り組む計画を体育委員会中心に企画していく。

「学びを支える教育環境の充実」については、ICTに関わる取り組みとして、本校は積極的にデジタル教科書等デジタル教材や学習者用端末を活用してきた。児童アンケート「デジタル教科書や学習者用端末を使った学習は楽しいですか」の項目において、肯定的な回答をした児童の割合も94%と高かった。ICT関係機器等の活用研修も行い、デジタル教材等の使用を進めている。また、「学校園における働き方改革推進プラン」については、業務の効率化を図り、会議時間の短縮化・短縮意識の向上に継続して取り組んでいる。昨年度4月～3月の12か月間のうち、月45時間を超えて時間外勤務を行う教職員の割合が50%を上回ったのは4月の1回のみであり、目標を達成できた。ゆとりの日に加え、新たに「ゆとり期間」の設定、会議資料のペーパーレス化、定時終了を目指した打ち合わせや会議、授業や行事準備の分担など、教職員一人ひとりが作業の効率化を進める意識を持ちながら業務に取り組んでいる。しかし、子どもたちに寄り添う時間を確保するための工夫を重ね、教職員の意識改革が少しずつ進んでいる一方で、児童・教職員にとってより効果的・効率的なICT活用や働き方の改善の余地はまだ残されている。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和7年度の年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消に向けて対応している割合を毎年100%にする。
- 令和7年度の小学校学力経年調査・校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。」の項目について、「当てはまる」と答える児童の割合を85%以上にする。
- 毎年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を、前年度より減少させる。
- 毎年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。」の項目に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を令和3年度より向上させる。
- 小学校学力経年調査における国語及び算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も6年生時の結果を令和3年度より向上させる。
- 令和7年度の小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか。」の項目に対して、肯定的に回答する児童の割合を令和3年度より向上させる。
- 令和7年度の小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか。」の項目に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を令和3年度より向上させる。

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和7年度の小学校学力経年調査における「正しいキーワードを入力して、知りたいことをインターネットで調べることができますか。」「デジタルドリルを使った学習は楽しいですか。」の項目に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を令和3年度より向上させる。
- 令和7年度の全教職員の年間総残業時間数を令和3年度より10%以上減少させる。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和7年度の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。」の項目について、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を77%以上にする。
- 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。
- 令和7年度末の保護者アンケートにおける「いじめのない学級・学年・学校づくりにつとめていると思いますか。」の項目について「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答える保護者の割合を93%以上にする。
- 令和7年度の児童アンケートにおける「学校は安心する場所だと思いますか。」の項目について、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答える児童の割合を90%以上にする。
- 令和7年度の児童アンケートにおける「学校のきまり・ルールを守ろうとしていますか。」の項目について、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答える児童の割合を90%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を36%以上にする。
- 小学校学力経年調査における国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。
- 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を76%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を66%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか。」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を70%以上にする。
- 令和7年度の小学校学力経年調査における国語及び算数の標準化得点を、同一母集団において比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
- 令和7年度の児童アンケート「運動したり体を動かして遊んだりすることが楽しいですか。」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を90%以上にする。
- 令和7年度の児童アンケート「毎日の健康のために、手洗いうがいや、睡眠に気を付けている」の項目について、「そう思う（どちらかといえばそう思う）」と答える児童の割合を85%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の8割以上が学習者端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上になるようにする。(学校行事等のICT活用が適さない日数を除く)
- 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2の一部を満たす教職員の割合を50%以上にする。
- 令和7年度の保護者アンケートにおける「学校は、ホームページや学校公開などを通して、開かれた学校づくりに努めている。」の項目について、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答える保護者の割合を93%以上にする。

大阪市立平野小学校 令和7（2025）年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【安全・安心な教育の推進】</p> <p>○令和7年度の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。</p> <p>○小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。」の項目について、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を77%以上にする。</p> <p>○年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。</p> <p>○年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。</p> <p>○令和7年度末の保護者アンケートにおける「いじめのない学級・学年・学校づくりにつとめていると思いますか。」の項目について「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答える保護者の割合を93%以上にする。</p> <p>○令和7年度の児童アンケートにおける「学校は安心する場所だと思いますか。」の項目について、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答える児童の割合を90%以上にする。</p> <p>○令和7年度の児童アンケートにおける「学校のきまり・ルールを守ろうとしていますか。」の項目について、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答える児童の割合を90%以上にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>自分を大切に、周りの人も大切にできる集団を育成する。（1－1いじめへの対応）</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学年で作成した学年目標に基づき、年に1回以上、学年集会や学校行事を通して集団育成の取組を行う。また、「みんな遊び」を月1回以上、20分休みか昼休みに行く。 年3回、人権学習週間を設定し自分や集団を振り返る機会を設けるとともに、児童や集団の実態把握に努める。 児童アンケートにおける「友だちの気持ちを考えて行動できていますか。」の項目について、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答える児童の割合を90%以上にする。 	A
<p>取組内容②【1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>いじめ・不登校等の未然防止・早期発見・初期対応を大切にしたい取組を行う。（1－2不登校への対応）</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 学期に1回、人権学習週間を設け、「いじめ・いのちについて考える日」を設定する。また年間3回「いじめアンケート」を実施し、いじめの未然防止、早期発見に当たる。 児童アンケートにおける「学校は安心する場所だと思いますか。」の項目について、 	B

<p>「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答える児童の割合を90%以上にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートにおける「いじめのない学級・学年・学校づくりにつとめていると思いますか。」の項目について「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答える保護者の割合を93%以上にする。 ・年間通して、1人1台学習用端末を効果的に活用し、スクールライフノートを用いながら取り組む。 ・いじめ・問題行動の事案発生時には、第三者委員会を中心に迅速に対応に当たる。 	
<p>取組内容③【1 安全・安心な教育環境の実現】 学校のきまりについて教職員で共通理解し、児童が規律ある学校生活を送れるようにする。 (1-3 問題行動への対応)</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校のきまりを年度当初に作成、配布し毎週の朝会での指導や学級指導で啓発を行う。 ・学習規律（始業・終業のあいさつなど）を学校全体で統一する。 ・児童アンケートにおける「学校のきまり・ルールを守ろうとしていますか。」の項目について、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答える児童の割合を90%以上にする。 ・学期に1回、あいさつ月間を設け、進んであいさつできる児童を増やす。児童アンケートにおける「自分から心をこめてあいさつをしようとしていますか。」の項目について「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を90%以上にする。 	B
<p>取組内容④【2 豊かな心の育成】 キャリア教育の充実を図るため、出前授業やゲストティーチャーなどを招聘するなどして、将来の夢や目標の実現に向けた意欲を育む。 (2-2 キャリア教育の充実)</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学年で、1回以上出前授業や体験学習などの取組を行う。 ・キャリアパスポートを活用し、主体的に学びに向かう力が身につくよう、学期に1回以上、自分の生活を振り返る。 ・キャリア教育年間指導計画に基づいて6年間系統立てた取組を推進する。 	B
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>取り組み内容① 2学期の児童アンケートの結果は、93%と目標を上回っていた。学年集会やみんな遊び、人権学習週間等も計画通り、または計画以上に進めることができおり、どの学年も集団育成がなされていた。</p> <p>取り組み内容② いじめアンケート、スクールライフノートについては、計画通り進められている。児童アンケートにおける「学校は安心する場所だと思いますか。」の項目について、肯定的な回答の割合が93%、保護者アンケートにおける「いじめのない学級・学年・学校づくりにつとめていると思いますか。」の項目について、肯定的な回答の割合が96%と目標を上回ることができた。</p> <p>取り組み内容③ 学校のきまりやあいさつの取り組みについて、全教職員で共有し統一した指導を行うことができた。児童アンケートの「学校のきまり・ルールを守ろうとしていますか。」の項目において肯定的な回答の割合が95%、「自分から心をこめてあいさつをしようとしていますか。」の項目において肯定的な回答の割合が91%と目標を上回ることができた。しかし、進んであいさつをしようとする児童は少なくなっている。</p> <p>取り組み内容④</p>	

各学年で、1回以上出前授業や体験学習に取り組んでいる。キャリアパスポートを活用し、学期に1回以上自分の生活を振り返ることができている。キャリア教育年間指導計画に基づいて系統立てた取組を進めている。

来年度への改善点

取り組み内容①

引き続き、自分のことを大切にし、周りの人の気持ちを考えた行動ができるよう集団の育成に努める。

取り組み内容②

いじめや不登校の未然防止、早期発見、事案発生時の共通理解を大切にし、見過ごされる環境にならないよう丁寧に進める。また、スクールライフノートの活用も継続して行う。

取り組み内容③

引き続き、決まりやあいさつについては全教職員で差のない指導を行っていく。しっかり朝のあいさつができる児童が少なくなってきたので、児童会を中心とした取り組みを考え、行っていくとともに、教職員が見本となるようにあいさつをするようにする。名札をつけていない児童も増えてきているので、帰る前に学校に置いて帰る方針も検討していく。

取り組み内容④

引き続き、出前授業、キャリアパスポートの取り組みを計画通りに進めていく。

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を36%以上にする。</p> <p>○小学校学力経年調査における国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。</p> <p>○小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を76%以上にする。</p> <p>○小学校学力経年調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を66%以上にする。</p> <p>○小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか。」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を70%以上にする。</p> <p>○令和7年度の小学校学力経年調査における国語及び算数の標準化得点を、同一母集団において比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。</p> <p>○令和7年度の児童アンケート「運動したり体を動かして遊んだりすることが楽しいですか。」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を90%以上にする。</p> <p>○令和7年度の児童アンケート「毎日の健康のために、手洗いうがいや、睡眠に気を付けている」の項目について、「そう思う(どちらかといえばそう思う)」と答える児童の割合を85%以上にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>朝学の時間やモジュールの時間において、国語科や算数科における児童の実態に応じた前年度の既習事項の学習プリントを作成し活用する。</p> <p style="text-align: center;">(4-1 言語活動・理数教育の充実)</p>	B
<p>指標</p> <p>漢字については全学年同じ形式の既習事項の漢字プリントに取り組み、計算については基礎計算のプリントに取り組んだ上で基礎計算実態調査を行い、1回目よりも2回目の正答率を向上させる。また、国語科における学習プリントに年1回以上取り組む。</p>	
<p>取組内容②【4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>年に2回以上、講師先生を招聘し授業力向上のための校内研修会を開く。また、子どもたちの伝え合う力を高められるように、児童の発達段階に応じた「話し方のルール」や「ハンドサイン」の掲示物を用意し、教室内に掲示する。(4-1 言語活動・理数教育の充実)</p>	B
<p>指標</p>	

<p>主体的・対話的な学びの場を設定し、思いや考えを伝えあうことのできる授業を年 1 回設定し取り組む。</p>	
<p>取組内容③【4 誰一人取り残さない学力の向上】 計画的に系統的に外国語活動の学習に取り組んだり、様々な教科の中で世界の国々の文化理解につながる教材に、子どもたちが触れられる機会を設定したりすることで、子どもの他の国や地域の言葉や文化に対する興味関心を高める。 C-NET と連携し、低学年から外国語に触れられる機会を増やす。 (4-3 英語教育の強化)</p>	B
<p>指標 令和 7 年度の児童アンケート「他の国や地域の言葉や文化に興味をもっていますか。」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を 78% 以上にする。</p>	
<p>取組内容④【5 健やかな体の育成】 体育集会やかけ足集会を行い体力の保持増進を図る。また体育委員会が中心になり、体を動かす遊びを行うことで、多くの児童が楽しく運動に取り組める環境をつくる。 (5-1 体力・運動能力向上のための取組の推進)</p>	B
<p>指標 令和 7 年度の児童アンケート「運動したり体を動かして遊んだりすることが楽しいですか。」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を 90% 以上にする。</p>	
<p>取組内容⑤【5 健やかな体の育成】 毎月、ほげんだよりを発行し、児童や家庭に健康に留意するよう呼びかける。また、健康委員会を中心に朝会や校内放送でも手洗いうがいなどを励行するよう、感染症予防のための呼びかけを行う。 (5-2 健康教育・食育の推進)</p>	A
<p>指標 令和 7 年度の児童アンケート「毎日の健康のために、正しく手洗いをすることができていますか。」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を 85% 以上にする。</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>取組み内容① モジュール学習の時間を利用し、計画的に基礎計算実態調査や計算プリント、視写に取り組んだ。基礎計算実態調査の結果から、1 回目より 2 回目の正答率が、おおむね上回っていた。計算が苦手な児童は、同じ間違いをしているので、定期的に振り返る必要があることがわかった。視写については、正確に速く書けるようになってきた。</p> <p>取組み内容② 研究授業にて、主体的・対話的に学び、思いや考えを伝えあうことのできる授業を年 6 回設定することができた。5 月と 11 月に講師先生を招聘し、国語研修会を行った。音読についての基本的な指導法を学ぶ機会を設けることができた。また、「話し方聞き方あいさつ」や「ハンドサイン」、「声のものさし」の掲示物を全校統一して、特別教室を含む全ての教室に掲示した。授業やそれ以外での時間で丁寧に指導しながら活用したことで、自分の考えを明確に伝えようとしたり、自分の考えと比較しながら聞こうとしたりする児童が増えてきた。</p> <p>取組み内容③ 人権学習週間や各学年の取組みを通して、他の国の文化やあいさつに触れる機会を設けることができた。児童アンケートにおいて肯定的な回答をする児童は 78% と目標を達成できた。</p> <p>取組み内容④ 児童アンケートにおいて肯定的な回答をする児童は 93% と目標を上回った。学期ごとの体育集会や休み時間に実施したドッジボール大会で児童が運動場で遊ぶ機会を設けることができた。児童が運動場で元気よく遊ぶ児童の姿がある。</p>	

取り組み内容⑤

肯定的な回答をする児童は 95%と目標の 85%を大きく上回った。健康委員会のハンカチティッシュチェックや放送、ポスター、教職員の日々の声掛けなど手洗いに関する啓発を多岐に渡り行った。

来年度への改善点

取り組み内容①

視写の取組では、一定の効果があったので、来年度も続けていく。基礎計算実態調査については、学年に応じて学習プリントの改善や漢字についても取り組めるようにする。

取り組み内容②

国語科研修会に関しては、指導法に絞って学ぶことで授業改善に生かすことができるため、研修のテーマについて年度末に講師先生と協議する必要がある。話し方や聞き方、声の大きさなど基本的な学習に取り組む姿勢に関しては、学年での指導の差を出さないためにも、全教職員が粘り強く時間をかけながら指導していく必要がある。

取り組み内容③

C-NETとも連携して、低学年から外国語に触れられる機会を設ける。また、人権学習週間の取り組みも継続的に行なっていく。

取り組み内容④

これからも児童が進んで運動場で遊びたくなるような機会を設けていく必要がある。学校生活アンケートには「運動をしたり体を動かしたりすることが楽しいですか。」の項目に肯定的に回答する児童が多いので、維持できるように取り組みを続ける。

取り組み内容⑤

健康委員会が中心となり、正しい手洗いの啓発を様々な方法で行っていく。教職員の声掛けも継続していく。

大阪市立平野小学校 令和7(2025)年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A:目標を上回って達成した	B:目標どおりに達成した
	C:取り組んだが目標を達成できなかった	D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <p>○授業日において、児童の8割以上が学習者端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上になるようにする。(学校行事等のICT活用が適さない日数を除く)</p> <p>○第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2の一部を満たす教職員の割合を50%以上にする。</p> <p>○令和7年度の保護者アンケートにおける「学校は、ホームページや学校公開などを通して、開かれた学校づくりに努めている。」の項目について、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答える保護者の割合を93%以上にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【6 教育DXの推進】</p> <p>ICT支援員と連携しデジタル教材や学習者用端末の活用について、助言や研修を受け教員のICT活用能力の向上に努める。(6-1 ICTを活用した教育の推進)</p> <hr/> <p>指標</p> <p>教員のICT活用能力の実態をとらえ、デジタル教材や学習者用端末の活用についての校内研修を行う。</p>	B
<p>取組内容②【6 教育DXの推進】</p> <p>授業の中で、デジタル教科書や学習者用端末を用いる頻度を昨年度より向上させる。また、デジタルドリルの活用を進める。(6-1 ICTを活用した教育の推進)</p> <hr/> <p>指標</p> <p>学習者用端末(タブレット)を週3日以上活用する。</p>	B
<p>取組内容③【7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>業務の効率化を図り、会議形式に工夫を取り入れることで子どもたちに寄り添う時間を確保する。(7-1 働き方改革の推進)</p> <hr/> <p>指標</p> <p>月に45時間を超えて時間外勤務を行う教職員の割合が50%を上回る月を、年間6月までにする。</p>	B
<p>取組内容④【9 家庭・地域等との連携・協働した教育の推進】</p> <p>開かれた学校を目指して、地域や保護者へ教育活動を発信する。(9-1 教育コミュニティづくりの推進)</p> <hr/> <p>指標</p> <p>月に1回学年だよりを発行したり、週に1回以上学年ごとに学校ホームページを更新したりして、日々の教育活動や学校の方針、取組など、教育実践を発信する。</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取り組み内容①

年間を通して、ICT 支援員と連携しながら学習者用端末を活用することができた。また、「心の天気」の入力も習慣化してきたことで、児童の学習者用端末の活用機会も増えている。しかし、出席・登校状況や端末不良の要因もあり、児童の8割以上が活用した日は約7%に留まり、目標には未達となった。校内研修については、学習者用端末が Chromebook に切り替わることもあり、端末の使用方法や Google 系アプリの活用方法の研修を3学期に実施する予定である。

取り組み内容②

心の天気の入力やデジタルドリルの活用によって、学習者用端末の使用頻度が増えた。学習サイトを利用したり、カフート内で児童が問題作成をしたりして学習の振り返りをする学級もあった。また、連絡帳や授業中の資料配布を Teams に掲載することで学習者用端末を活用する場面をつくり、児童が端末に触れる機会を多くした学年もあった。しかし、充電をしても電源がすぐに切れるなどの端末不良が多くあり、児童が利用できない場面が多々あった。

取り組み内容③

1～2学期（4～11月）の8か月間のうち、月45時間を超えて時間外勤務を行う教職員の割合が50%を上回ったのは、4月と6月の2回のみであり、目標を達成できた。昨年度から引き続き、ゆとりの日やゆとり期間を設定することに加え、今年度からは新たに最繁忙期の春休み明けの1週間を短縮授業期間に設定した。また、会議資料のペーパーレス化が定着し、定時終了を目指した打ち合わせや会議、授業や行事準備の分担など、教職員一人ひとりが作業の効率化を進める意識を持ちながら業務に取り組んだ結果、少しでも子どもたちに寄り添う時間を確保できるよう教職員の意識改革を進めることができた。

取り組み内容④

学年だよりに関しては、全学年で月一回発行することができた。
ホームページに関しては、年度途中より、更新頻度が月一回程度となったが、新しいホームページの更新方法も共有され、教育活動など発信することができた。

来年度への改善点

取り組み内容①

来年度も、ICT 支援員の助言を受けながら、学習者用端末の活用についての研修を実施したり、有効な活用方法について教員間で情報共有したりすることを通して、教員の ICT 活用能力の向上を目指す。

取り組み内容②

心の天気やデジタルドリルの利用を来年度も引き続き進め、それ以外の活用方法について情報共有、研修の実施を検討する。

学習者用端末が今年度内で新端末に転換されるので、充電に関する不具合は減少することが予想される。端末が故障した場合の端末の取り扱いについて把握し、端末不良のまま児童が使い続けることがないように努める。

取り組み内容③

来年度も時間外勤務の総時数減少を目指し、さらなる業務内容の見直し・効率化を図ることで、教職員が今以上にゆとりを持って児童と向き合うことができるよう努めていく。

取り組み内容④

学年だよりに関しては、来年度も引き続き月に一回発行できるように進めていく。ホームページに関しては、来年度は月一回程度の更新に指標を変更する必要がある。

3 本年度の自己評価結果の総括

「安全・安心な教育の推進」「未来を切り拓く学力・体力の向上」「学びを支える教育環境の充実」の各目標について、概ね年度目標を達成することができた。

「安全・安心な教育の推進」では、子どもが安全に安心して成長できる教育の推進に向けて、人権教育部、生活指導部、学年部を中心に各部連携して取り組みを進めてきたことで、概ね年度目標を達成することができた。児童の様子を共有するための児童共通理解データやいじめ対策委員会、学期に1回のいじめアンケートなどを活用し、課題の早期発見、迅速な対応に努めてきた。それにより、年度目標の校内調査（いじめアンケート）における本校で認知したいじめについては、学年部・人権教育部・各部署・管理職を中心に連携・対応し、解消した割合を100%にすることができた。学校アンケートにおける「いじめのない学級・学年・学校づくりに努めている」の項目について、肯定的な回答をした保護者の割合は昨年度の96%からさらに上昇して97%となり、年度目標を上回った。また、関係諸機関と連携が必要な暴力行為は今年度も見られなかったため、人権教育の成果が表れている。「学校は安心する場所だと思いますか。」の項目について、肯定的な回答をした児童の割合も昨年度の90%から91%に上昇し、年度目標を上回った。学年集会や学年・学校行事、学級遊びの取り組みを計画的に行ったことや、学期に1回設定した人権学習週間により、周りの人も自分も大切にできる集団育成に努めた成果である。「学校のきまり・ルールを守ろうとしていますか」の項目について、肯定的な回答をした児童の割合は91%であり、年度目標を上回った。来年度も、規律ある集団育成のための指導方法について共有し、全教職員が統一して適切な指導にあたることができるよう継続していく。

「未来を切り拓く学力・体力の向上」については、学校アンケートによると、概ね指標を上回っている。今後、学力経年調査結果の発表を受け、正答率、質問紙に対する回答の分析を行うこととする。学力面の成果としては、学校アンケートにおける「学校の勉強がわかるようになってきていますか。」の肯定的回答が93%を超えていることである。昨年度の90%よりさらに3%上昇し、引き続き高い水準を維持できていることから、年間を通して児童の実態に応じた授業を行い、きめ細やかに学力向上に取り組んできた結果と言える。「運動したり体を動かして遊んだりすることが楽しいですか。」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合が92%であり年度目標を上回った。年間を通して体育集会を計画的に行い、20分休みの「ドッジボールタイム」などの新たな取り組みの成果であると思われる。「毎日の健康のために、手洗いうがいや、睡眠、食事に気をつけている」の項目について、肯定的な回答をした児童の割合が84%であり年度目標をわずかに下回った。健康に関する活動の啓発は、毎月の保健だよりの発行で家庭へ、発育測定時に養護教諭が直接児童へ、そして委員会活動を通して呼びかけをするなどの取り組みを計画的に行っている。しかし、コロナの収束以降、「感染症予防に対する意識の低下」が顕著になってきているため、今後も継続して啓発活動に取り組んでいく。

「学びを支える教育環境の充実」については、デジタル教科書やタブレットを活用し、授業をはじめ、不登校傾向にある児童へのリモート学習も必要に応じて行っている。また、ICT支援員と連携しながら学習者用端末を活用することができた。「学校は、ホームページや学校公開などを通して、開かれた学校づくりに努めていると思いますか。」の項目について、肯定的な回答をした保護者の割合が96%であり目標を上回った。今年度途中より教職員の私物端末が使用不可になり、業務効率が下がったことを受け、これまで各学年週1回の頻度でホー

ムページを更新していたものを、月1回程度の更新に改めざるを得なくなったものの、日々の教育活動の様子をできる限り発信できた。児童アンケートの「デジタル教科書や学習者用端末を使った学習は楽しいですか。」の項目について、肯定的な回答をした児童の割合が94%であり目標を大きく上回った。「学校園における働き方改革推進プラン」については、業務の効率化を図り、会議時間の短縮化・短縮意識の向上に継続して取り組んだ。その結果、4月～11月の8か月間のうち、月45時間を超えて時間外勤務を行う教職員の割合が50%を上回ったのは、4月と6月の2回のみであり、目標を達成できた。また、会議資料のペーパーレス化が定着し、ゆとりの日やゆとり期間の設定、定時終了を目指した打ち合わせや会議、授業や行事準備の分担など、教職員一人ひとりが作業の効率化を進める意識を持ちながら業務に取り組むことができた。子どもたちに寄り添う時間を確保するための工夫を重ね、教職員の意識改革を少しずつ進めることができた。来年度もさらに働き方について議論を重ね、改革を継続したい。

本校では「平野小学校の子どもたちにとってより良い教育」を推進するため、様々な観点から目標を設定して取り組みを行い、その結果を受けて改善策を検討し、さらなる取り組みを進めている。本年度、概ね目標を達成することができたが、課題も見つけることができた。本年度の成果と課題を振り返り、来年度も継続して教育を推進していく。